太宰管内志

薩摩之中
出水郡　薩摩郡　甑島郡
日置郡　伊作郡　阿多郡

和書門
類
二九六〇一
號
二〇二
函
九
架
八二
冊

内閣文庫
和書
類
二九六〇一
號
八二
冊
七二
函
七
架

内閣文庫
番號　和　29601
冊數　82（20）
函號　176　44

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

大宰管内志

薩摩之中

筑前人伊藤常足編録

明治十年獻本

○出水郡

延喜式ニ薩摩國出水郡あり。和名抄ニ薩摩國出水ハ伊豆美ヤあり。名義詳ならぬ。土中より涌出る水なと有て負せたるか。和名抄ニ越前國大野郡出水郷あるとし同意なるへし。さて古事記中巻ニ品陀和氣命坐軽島之明宮治天下也云云。又要日向之泉長比賣生御子大羽江王次小羽江王次幡日之若郎女云云。應神天皇紀ニ次妃日向泉長姫生大葉枝皇子小葉枝皇子此頃ハ大隅薩摩をかけて日向といへりしあり。新撰姓氏録左京諸蕃ニ出水連出

自高麗國人那能致元之後也續紀三十五卷ゝ宝亀三年十
一月遣唐使件ゝ乙卯第二船到泊薩摩國出水郡東鑑十五卷
ゝ云云伊佐三郎泉八郎島津系圖ゝ島津上総久忠宗二男
忠氏出水之祖也云云島隱漁唱上卷ゝ扇面為和泉越前翁
能歌詠

汐含影暗浦村烟隔岸聊音繫釣船人挾歌詞坐舒嘯淡
山落月晩猶懸

是ハ文明壬寅十二年ゝり嶋隱漁唱中卷ゝ薩州閤下茲年之夏嚴付内
味禁酒事其守恰若浮圖法鵝雪蠟氷人孰窺其班乎故門無
雜客座無漫士禪三昧之外或出魯論或寫唐詩字裡金生行
間玉潤使讀者快然也頃居泉之衙内宦務蠅夥佛乘亦勧親
拾小石以謄七軸之蓮經外護之信我可其不喜尚乎一日遊
山之次得佳木制以為杖遠託飛廉而見投贈寫予也衰老
之甚蒙此扶持之力何賜過之耶於是作詩一章答仁恕之萬
一云

大士高居菩薩泉封内如掌鎮山川大守欲致安邊策貴
戚須依希世賢當時讓國非一度大白可謂至德全仁風
義氣滿海外人爲便乎天下傳戲虐元自不為虐向人懷
抱軟於綿湯餅齊盂餅酒肉工夫密々石盤穿風流渠昔
誰相似在家学僧黄庭堅爐背沈檀香馥郁塔前修竹緑

嬋娟雞客不来多閑旦啼禽呼醒午窓眠魯論唐詩供戯
筆卷帙作堆字々鮮故信佛書可謄寫石上花開七軸蓮
何又區々労心力出門一笑海山連登臨時効謝公屐車
服不巾馬不鞭兒童六七後冠者詩客両三先乾禪出谷
口分入谷口登山巓分下山巓蒙密穿束得佳木曾託乾
根大拯先旁枝宛轉又宛轉莓苔為衣藤蔓纏截作君家
吳壽杖銅頭鉄尾響鏗然爨下殘桐能幾尺一曲両曲絙
以絃青蛇潛蹤豊城嶽夜々寒光射斗躍非啻張華與蔡
邕知者視物不弁指袈裟近卜兎裘地秋風破屋茅三椽
四首故郷千々里孤客飄々誰又憐誰又憐有裴君子三

年懐惠感二天此枝非軽萬金賜珍重仁恕扶衰年四海
九州蹤耐跨三吳百越夢相牽冠賊犯夜誇武備豺虎當
途寧空拳前王用才謀已拙空閒刁蹶與羸顛山逕泥融
夜来雨浦村月暗水邉烟不可無杖我倦矣樂在阮宣一
百錢霜楓愛見林峦上露菊折殘籬落前海上珊瑚何足
貴天台柳標好因縁有人若問何至宝高價難酧盡三千
盡三千思難酬價較以禪餘詩一篇

薩摩軍記略ゑ天文四年十月島津勝久没落於是出水城主
島津八郎左衛門尉實久欲掌握薩隅日之三州云云是八志布志記
の説なり天正十五年四月云云秀吉公軍勢著船當國出水城主

嶋津又太郎忠辰不及一戰降參宗氏家譜ニ文録四年四月
二十六日秀吉公賜出水郡（在薩摩州）一萬石地於義智賞連年之
戰功云云慶長四年正月廿五日東照君以義智所領薩摩州
出水郡之采地代肥前内基肄郡養父郡之地なと見えあり
さて郡の大様ハ和名抄九卷ニ出水郡山内勢度借家大家
國形（上四郷）ゟ寛知集ニ出水郡十七村郷村帳ニ出水郡
郷行元（西目大河内六月田鮫浦上智職）高尾野郷（下高野下鶴唐笠上鶴紫引大鶴）野田郷（上下名）
長嶋郷（長嶋郷子目）阿久根郷（多田西目赤瀬河山下波留鶴河内折口大川）なとあ
り。さて輿地圖を考ふるニ薩摩國出水郡東ハ當國伊作郡
ニとゝるゝ南ハ同高城郡ニとゝるゝ西ハ海を限りゝ北ハ肥

後國葦北郡ニとゝるゝて東西七八里南北五六里あり郡中
ニ宮道あり肥後國八代城ゟ薩摩國麑島ニかよふ道を
ぢなり（出水口とて肥後葦北ゟ入る所ニ番所あり）郡中ニ川あり
薪材魚塩ニ乏しゝ（ゆゑに物ゝ出水郡長嶋の地いへ
ゝ肥後ニ付けゝを後ニ薩摩
ニつきうる物ゝ多ゝいへ
ゝ正しく出水郡ニ近くて肥後の方ニ物ゝ多きゆ
ゑに郡中ニ古城一所あり城主歴代の事ゝ委しく考へ
て記しかゝ尚ゝ化ぢいさぶ多づきを以て

○加紫久利神社

延喜式ニ出水郡加紫久利神社あり御名義いかゝ詳ならず
す國くの説ニ加志ハ此郡の地名ゝとゝいうゝあらむ僧神洞云薩州加紫久利
神ハ出水郡出水郷ニあり西南ニ向へり拜殿ハ入五間ニ

平六間斗りにて厚板葺なり棟ハこかげ石にて包めり坊
中五六ヶ寺ありり社に詣る道の左にあり社のうらと右と
い田なり社より鳥居まで三町斗あり地所山にいりさ
れども少高し古木大きなるけれり是より西南に泉の町有
り一里あり社より三町斗西に米の津の町あり又云米津
の番所を西南に入て左へ二町斗ゆくと加紫久利の社也
馬場の長さ四五町あり神前より次第さうりにて五町ル
うるへし馬場さきに石の鳥居有り其左右に石の二王有
是石を畳まりてそれるきさと付け多き物也二王の高さ
一丈ゆ余らず神殿棟の鬼瓦四尺四方斗りにて石也四

方のすこしも鬼瓦ありて石也鬼瓦の上にさしもの鳥
衾有りしも石也其丈夫なる事驚くべし神殿よりつを木あ
り丈七石也拜殿ハ天井も床も長さ六間の杉板にて是
こりすこしの櫛もなる事なしヤクノシマ杉とこゆ幸丸
云加紫久利社ハ社領二百石つけ別當社僧あり社家を太
夫とりふ七十石を領ス文德實録三巻に仁壽元年六月壬
寅朔戊午以薩摩國賀紫久利神預於官社三代實録四巻に
貞觀二年三月廿日庚午薩摩國從五位下賀紫久利神授從
五位上同書十巻に貞觀七年五月廿五日乙巳授薩摩國從
五位上賀紫久利神正五位下同書十二巻に貞觀八年四月

七日辛巳授薩摩國正五位下賀茂久利神正五位上。なとあ
り。國人云賀茂久利神社ハ出水郷平松村なりと云ふ祭
神祭日神宮等事いまゝ考へ侍。或人ハ賀茂久利神ハ天照
大神三女神住吉大神を祭
りと云へれと式なし一座とあり。此説ハうけがたし

○加志

續紀十卷なる天平元年七月大隅薩摩隼人朝貢件云云加志君多利外
従七位上。同書三十卷なる神護景雲三年十一月大隅薩摩隼人奏俗伎件
外従五位下加志公島麿呂授外従五位上。とあり。神代紀下
卷なる鹿葦津媛とあるハ鹿葦ハ加志と訓むべき例なれど
こゝの加志なる由ある事とハいはゞるゝ考へべし。加志地

いまゝ詳ならざれども國人説なる古老傳なる上古なる出水郡
加志地主名なし人の霊を祝て加茂久利神社とす久利ハ
君と云意なりと云傳なりと云ふ此説よりて暫く此處
なる拳て後考をまつなるべし。クリハ君の意なりと云事なり
クリと訓なるなと聊
ありはなる聞ゆ

○櫟野驛

延喜兵部省式なる薩摩國櫟野驛あり。櫟野ハ加志能と訓べ
し。字鏡なる櫟加志乃木ともあり名義ハ櫟木の多く生る處なる て負せいる
べし。地理詳ならざれとも加志君例なる て暫く此處なる拳つ。
今ハ此郡なる阿久根野田高風野出水等驛あり高風野ハ高
櫟野をつゝしがゝ多るなるとなるもあらめや

隼人迫門

萬葉集三卷ゑ長田王作歌一首.

隼人乃薩摩乃迫門乎雲居奈須遠毛吾者今日見鶴鴨.

同書六卷ゑ神亀五年帥大伴卿遥思芳野離宮作歌一首.

隼人乃湍門乃磐母年魚走芳野之瀧尓尚不及家里.

夫木集ゑ公朝.

薩摩浮迫の早みの潮さゐい只漕過ゑ碇ありさで.

ゐとゐり.和名抄ゑ出水郡教度郷あり.麑嶋人鮫島氏云隼人迫門ハ出水郡出水郷ゑあて長島ゑ渡る處なり是をくろの迫門といふ.彦山僧玄辨曰隼人迫門ハ出水郡阿久根ゑて同郡長嶋ゑ渡る間のせとゐり今ハ黒の迫門といふ肥後國葦北郡の方ゑて坊の津ゑいく船の必通るべき所ゐり潮の満干ゑはえいもび瀬の早き所ゑて船人の怨ゐくせとゐる山.常足按するゑ此大伴卿の歌ハ帥と成て さゐの國々をめくりゆふ時ゑ見てをゑめくゐるゐるべー大伴卿の薩摩守と成ゆひし事ハ袋冊子ゑしゐる家持卿の傳ゑ天平宝字八年正月薩摩守神護慶雲元年八月太宰大貳とゐり神亀五年ゐり是ゆて三十六年ゑ及ふ天平宝字ハ天平ゐ取ちがへゐるゑてもあるべー大貳とあるハうけがふし.

○山内郷

和名抄ニ出水郡山内トあり。山内ハ世万宇知ト訓ベシ。名義ハ山懐ニある處カトして負せうるベシ。今ハ郷地詳ならず

○勢度郷

和名抄ニ出水郡勢度トあり。勢度ハ世登ト訓ベシ。和名抄六巻ニ駿河國益津郡西刀世止ともあり。名義ハ迫門ニて集人、迫門より起るものと聞ゆ。今此郷ハ絶て出水郷ニ入る故ニ由なり。集人、迫門、件を考合そべし

○借家郷

和名抄ニ出水郡借家トあり。借家ハ加志也ト訓ベキか。國人説ニ昔此郡ニ加志ト云地名ありし由云へり。名義地理ともニ詳ならず。標ニ由ありて負せうるもあらむかなお標野驛件考ふべし

○大家郷

和名抄ニ出水郡大家トあり。大家ハ於保也ト訓ベキか。さしも和名抄七巻ニ上野國多胡郡大家、越後國古志郡大家、同九巻豊前國下毛郡大家ニハオホヤケトかなを付ケあり なほよく考ふべし 名義地理ともニいまゝ詳ならず

○國形郷

和名抄ニ出水郡國形トあり。國形ハ久尓加多ト訓ベシ。名義地理ともニいまゝ詳ならず

○英祢驛

延喜兵部省式薩摩國英祢驛あり武備志ゑ薩摩州阿久根
と訓り英祢ハ安具祢(アグネ)と訓べし名義詳ならず和漢三才圖
會薩摩國西肩三里半阿久根二里半野田郷村帳ゑ出水郡
阿久根郷訓り

○高城郡

田人ハタキノコホリと唱ふるなり

延喜式ゑ薩摩國高城郡あり和名抄ゑ薩摩國高城太加木
とあり名義いまゝ詳ならず高木又高山(タカキ)ゝの意ゑてル
ハ筑後国高木神(たかぎむら)山をキとしふ事訣
委くいへるが如し軍記略ゑ五月四日秀吉有著船于高
城郡川内川云云高城水引城兵等不戰下城南浦文集上卷
ゑ云云於朝鮮征代之時義弘與其子忠恒麾從其軍數年之

間労於軍務云云大閤殿下為賞其功賜親子以寶劔且復賜
薩州之地和泉高城二郡以為其履矣ゝとあり さて郡大様
事ハ和名抄九卷ゑ高城郡合志飽田樹木宇土託萬已上六郷ゝり
寛知集ゑ高城郡云云和名抄ゑ出る郷名内樹木新多の
二郷ハ高城郡の内ゝるべし其餘の四郷ハ肥後國の名の
混入したるまて高城郡ゑさる地名ある事ゝ八村郷村
帳ゑ高城郡高城郷禁城上麥浦湯田口西方水引郷五代大小路宮内細津ゝとあ
り輿地圖ゑ按ずるゑ薩摩國高城郡東ハ伊作薩摩二郡ゑ
とゝり南ハ海ゑ限とし北ハ海又出水ゑ限りとす東西六
里余南北四里余あり郡の南ゑ京泊湊ありて漕送の便宜

しき處なりと云ふ。神代山陵考に薩摩國高城郡氷引郷五
臺村中山嶺なる山陵を可愛山陵なるべ
由云へれと此説は信ずべし可愛山陵事は類姓郡内に委
く云べし。古事記傳十七卷に薩摩国人の云可愛山陵は云
云又川合陵端陵と云て二ツあり今俗に中山陵をば中陵と
云て中にあり瓊々杵尊の陵と云ふ川合陵は其左端陵は
右に在て此二陵をも天照大神と忍穗耳尊の陵なりと云
は非なり古帝皇を葬る或は三陵を営に一を聖躰ををさ
め餘は輜車及服御の物等をいさめ三墓を合せて某帝皇
山陵とすなるべし然れども此三陵合せて瓊々杵尊の可愛山
陵なり其中に玉躰を藏奉りなるは中陵なり今見るに此中
陵には巔に安磐石二尚壙蹙周圍以井韓世命其石最大如
俗謂斧石非神功不能輸山上他二陵則無之。さて又此陵の
右に新田宮と云あり瓊々杵尊を祀る又天照大神拷幡千
々姫をも配祀る此宮は後世に建るなるべし。此廟の山
を神亀山とし亀山とし云は山の形に依て此廟城し
即瓊々杵尊の宮城の墟なり廟山の背を城村と云是障を
削成なるに似なり是宮城の趾なりと云傳へ云さて或
人川合と可愛の字音と相近きを以て彼川合陵を可愛陵
なりと云は非なり今見るに中山陵と端陵とは大なる阜

なて山の如くなるを川合陵は中山陵を距る許と一里許
なて其地卑温狹隘非可以藏玉躰処と云ふ宣長今此説を
按に古帝皇を葬る或は云云と云るは然も何ることなるかを
も三墓を合せて某山陵とせしことなるも非ざいかの川
合陵端陵と云ふは可愛御陵とはあらず別なて他神の御
墓なるべし其故は川合陵は中山陵を距こと一里許と云
ふは若是可愛御陵に附なるそのなるもさそのり遠
く放て在るべきにあらず云云

○新田宮

神祇拾遺に筑前國大分宮肥前國千栗宮肥後國藤崎宮薩
摩國新田宮大隅國正八幡宮件五座在外國不便参詣也乃
後柏原院大永年中奉移山城國小山庄とあり新田は小比
太と訓べし。土人云新田亀山蓮臺院八幡三所南面鳥居二
ケ所二王門石橋あり坊中十二宇社宮五十人神領八百八

十三石。和名抄六巻ニ安房國朝夷郡新田八尔布多とあるも是ハよこを誤りたるなめりなるべし

さて薩州府志五所八幡ノ件ハ云云薩摩國新田宮已上謂之五所

別當とも あり。祭神應神天皇。神功皇后。玉依姫。已上三神なり

三陵考ニ瓊々杵尊天照大神拷幡千々姫を祭りとする説ハひがごとなり 新田八幡宮々

高城郡水引郷五臺村ニあり。和漢三才圖會ニ水三陵考ニ引有新田八幡宮

新田宮云云此廟の山を神亀山とも亀山とも云ハ山形ニ

依てなり此廟域ハ即瓊々杵尊の宮城の墟なり廟山の背

を城村と云屏障を削成なるニ似たり是宮城の趾なりと

云傳へなれ云云とあり

○國府

和名抄ニ薩摩國國府を注せざるハ脱ぬるなるべし。鮫嶋氏

云薩摩國府ハ高城郡水引郷國分村則其趾なり。國分村平

地廣く又川を帶て固とする様なりと正く古府の跡なり

○國分寺

續日本紀十四巻ニ天平十三年三月乙巳云云。毎國僧施封

五十戸。水田十町。尼寺水田十町。僧寺之令有二十僧。其寺名

爲金光明四天王護國之寺。一十二尼其寺名爲法華滅罪之

寺。両寺相去亘受教誡。主税式ニ薩摩國國分寺料二万束。同

十一面観世音菩薩燈分料一千五百束とあり。鮫嶋氏云薩

摩國国分寺ハ高城郡水引郷国分村ニありて今ハ護國山

國分寺といふ本尊藥師如來眞言宗なりと云ふ。其時の觀世音菩薩今もありとかゝる委き事ハ重ねて考ふべし

○尼寺

續紀十四卷ニ天平十三年三月乙巳毎國ニ云々尼寺水田十町云々。一十二尼其寺名爲法華滅罪之寺云々とあり。是し國分村中にあるべし。今ハ其趾絶て詳らかならず云。和漢三才圖會ニ薩摩國一乘院在高城眞言。

○欝木郷

和名抄ニ高城郡欝木とあり。欝木今ハ詳らかならず。強て考ふるニ欝ハ音ウツ。ウツるをイチニ轉用し。市木ニハあらざるや。欝をウチニ轉用し。ウツる例ハ書紀ニもありさて薩摩郡ニ市木郷と云しあり。是ハ川内河の南にて高城郡界ニ遠けれ共いつゝあらむ

○新多郷

和名抄ニ高城郡新多とあり。新多ハ仁比太と訓べし。名義ハ詳らかならず。しゝ贄田ニ由ある處ニハあらざるや。旧事本紀今本五卷ニ筑紫贄田物部あり。さて此郷地今ハ詳らかならず。さ迄とし今の新田八幡宮の邊を云なるべし。新田八幡宮ハ今水引郷ありて初ニ云るが如し

○京泊

圖書編五十卷ニ薩摩州強頭馬里とあり。図處ニハ鹿頭馬里とあり

輿地図ニ高城郡京泊あり。武備志二百二十三卷ニ薩摩州

京泊あり。京ハ呉音ヨ唱ふべし泊ハ登万里と訓べし。名義ハ詳ならねどもいてゝ古ヨ京の船をつけし津ゝヨ筑前國宗像郡ヨ京泊と云所のあるを海東諸国記ヨ経島とかき図書編ヨハ経字里と書

○薩摩郡

延喜式ヨ薩摩國薩摩郡あり。和名抄ニ薩摩国薩ハ散豆万とあり。名義ハ初ヨ云るが如し。されども此郡名を元ヨて国名ヨもなれるヨしなるへし又一ツ思ふ大隅國贈於郡なるの如く初ヨハ廣き名なるの後ヨしそなりて一郡の名となれるヨてもあらむ。

さて續紀三十卷ヨ外從五位下薩摩公鷲白云云外正六位上薩摩公久奈都。同書三十四卷ヨ外正六位下薩摩公豊継云云。郡大様事ハ和名抄九卷ヨ薩摩郡避石、幡利、日置、寛知集ヨ薩摩郡云云三十三村。郷村帳ヨ薩摩郡伊集院麥生田、中川、山猿、清藤、竹之山、寺脇、大田郡村、糸畑、徳重、野田、谷口、春山、土橋、石谷、有屋田、福山、上神殿川、下神之川、入佐神之川、飯牟礼宮内、古城、苗代川、市木郷、大里、川上、湊、神之川、長里、養母、湯田、伊但田、串木野郷、上名村、下名、百次郷、百次田、崎、山田郷、山田、隈之城、東年宮、宅野、高郷、中郷、中郷、東郷、南瀬、山崎、田海、樋脇郷、市比野、塔之原、中村、楠元、ゐどあり。輿地圖を考ふるヨ薩摩郡地東ハ大隅國桑原郡南ハ當國鹿児島郡日置郡ヨとり西ハ海を限とし北ハ高城郡伊佐郡ヨ隣て東西十余里南北七里余ヨて郡中ヨ大河あり。日向國諸縣郡より出て大隅國菱苅郡當國伊佐郡を経て當郡ヨ入て西方海ヨ入る是を川内河と云國中第一の大河なり

○避石郷

和名抄に薩摩郡避石とあり。避石はいつるよむなり。避字を地名に用ふる事例をくるべし兵部式に出羽国避翼驛と云あり地理志に詳らかず。

○幡利郷

和名抄に薩摩郡幡利とあり。幡利は波理と訓べし。名義郷地志に今は詳らかならず。

○日置郷

和名抄に薩摩郡日置とあり。日置は比於伎と訓べし。名義は日置部の居るゆゑ愛て負せらるべし。日置部の事は重仁天皇紀に見えたり郡名の日置も此郷より起る名なるゆゑ今は樋脇郷といふ那り

○智賀尾神

三代實録四巻に貞観二年三月廿日庚午薩摩國従五位下智賀尾神授従五位上とあり。江川氏云鹿児嶋西四里許に伊集院郷あり其所に祭神を智賀尾権現としてある是なりと云ふいつゞあらむ。

○二宮

和漢三才圖會に薩摩國二宮在薩摩郡二宮村祭神二座大巳貴命少彦命弘法大師草創之とあり。是えし智賀尾神事にあらぬにやなほよく考ふべし。

○市來驛

延喜式ニ薩摩國市來駅あり。市來ハ伊知久し訓ヘし。名義詳ならず。さて姓氏録ニ右京諸蕃漢市往君出自百濟国

明王海東諸国記ニ薩摩州市来千代大守大藏氏久重まゝ國久戊子年遣使來朝書称市来大守大藏氏國久以宗貞國請接待忠國從弟為其管下居部府島隱渕唱下巻ニ自櫛島赴市木村途中

小春菊後快晴天。万水千山若画然。吟下高峰又深谷。口□□□□□、

和漢三才圖會ニ薩摩國云云市來一里串木野郷村帳ニ薩摩郡市木郷あり。市来湊として舟の入る所あり西うけの湊なり此邊九太船といふもの多し大木をくりて作る船なり漢師多く是ニのりて魚をとる。猟鞠謠ニ是い九州薩摩国いちくどのゝ御内ニ九近尉し 猟中者ニて候さてゝ頼ニ奉り候御方ハ長く御在京ニて候が空敷ならせおひて候御うゝみし御ふゝを給ハり候唯今古郷へニようり下ニ候

○伊集院

海東諸國記ニ熙久乙亥年遣使來朝書称薩摩州伊集院寓鎮隅州大守藤原熙久約歳遣一二船。島隱渕唱上巻ニ哦松居士藤原政秀公昔股肱手薩府君而任伊城之處守有年于茲不令而行焉不言而信焉蓋金玉已之義也今將東覲光於上國於戲乎遊蹤之廣昔心益識達之義耶寔可嘉尚焉仍製

里語一章以壯厥行色

涼雨吹晴溽暑收潮平風熟送行舟七年持節伊城守万里餘光京國遊蘆荻洲前花未雪梧桐井上葉先秋歸期倒指兩三月日加多奈別愁

島隱集中卷々頃請喜翁老禪師於私第令看讀六百軸之金文及法華四山而見留禪詩一章珠玉之賜何幸過之乎仍賡高韻呈覧床下

放出摩訶般若光禪翁昨次割陰陽伊川南畔松杉寺期我敲門乘夜涼

代薩州閣下

哦松賢主人今將東遊仍告別於同僚以二十八顆之明珠傍及予氣韻玲瓏雅乱有餘竟以高韻重呈祖帳之下

人乃能詩襟宇清千山万水且吟行歸時囊有明珠在寄與衰翁好慰情

時遇大平家國清関門不鎖旅人行京宦若問安邊策魏闕雲端遠下情

如練禪翁一日投宮丁宦府之小院適聞藤播牧之欲東遊而速賦詩一章以壯厥行剩傍及管窺於予不獲愚以韻重贈藤公

老禪唫盡夕陽樓故乃高宦賦遠遊一曲離亭情易感碧

梧葉動旅窓秋。
雲幾重中鐘一樓。名藍未得扣川遊。行人有約錦旋日。楓
葉林巒共訛秋。

和伊川慶守政秀公賀正詩

嬾日映簾花柳春。天開景象物色新。伊川君子好詩律。白
首長吟欲効顰。

同書上巻ゑ文明辛巳云云賦便面小景以餞哦松居士豊城
之行

新暾紅映碧波中。一片蒲帆万里風。会不経旬帰亦速。豊
城只尺海山東。

和漢三才圖會ゑ薩摩國伊集院三里半市來。郷村帳る薩摩
郡伊集院ゐどあり。今ゝ都城のある處なりと云。伊集院家
の事ハ重ねて考ふべし。市來湊より伊集院の間ゑ高麗村
と云作る又農業を心する也髪ハそる事かゝ足ハ此方人
よりゝ長しゝといふ。又伊集院の町ゑ祝相院として禪林の古
跡あり石幹二王あり。天文五年三月七日忠良入道日新
嫡男貴久二男忠持父子三人卒一千余之兵攻落伊集院城
主町田中務ヶ輔久用云云。同六年正月七日日新入道攻落
伊集院竹山拵二月攻落福山拵犬迫拵於是貴久不得隱于
鹿児島谷山寺終沒落于川邊。

妙圓寺

島隱漁唱上巻ゑ丙午重陽應官命謁于伊城候館夕晩過橋
而入妙円精舍主盟老師相延就座覧其几上玉偈巨多。予需

近作得一篇貫華奪目並參寥碧雲師之流不多讓乎仍次其韻

佳節重陽好風景碧杉圍寺菊花秋正今為客垂々老往歲回頭叟々悠偶扣禪餘分文室捻令朐氷泛虛舟来參不礙人如織洞下清波第一流

詣妙圓精舍拜前席虎溪和尚尊像之次作禪詩告同来釣雪禪伯以述感懷之万一

寂寞松杉風外山我師戢化閉禪関焚香三展真前拜不覺和衣老淚班

〻あり彦山僧立辨云く薩摩の妙円寺ハ伊集院郷よあり

て古き寺なり

○玄豊寺

伽藍開基記九卷ゑ宝福寺開山禪師名覺忍号字堂薩州藤氏子母某氏懐娠時胞現卍字相因以為名生時有祥雲覆室族人異之云云嘗于本州結菴文其揖曰泰鑽居五日経行樋脇邑創玄豊寺聞洞下竹窓嚴和尚開法于瑞川往參之云云

〻あり薩摩郡日脇郷ゑ玄豊寺あり

○千代

海東諸國記ゑ久重ハ戊子年遣使来朝書称薩摩州市来千代大守大藏氏久重以宗貞国請接持千代ハ字音のまゝよ

訓べし。川内又千墓と書る物もあり名義詳らかならず。圖書編五十卷ゑ薩摩州先墓又隱德太平記七十四卷ゑ関白船千代川ゑ著云云ともあり。千代川の事ハ初ゑ今朝鍛冶考八卷大隅國鍛冶、正次、正親町御宇水くもしくいへる

禄薩摩川内平仮住。千代ゑ五ヶ都城あり

○串木野

武備志二百二十三卷ゑ薩摩州串木野とあり。串ハ串の誤、ゑて久志機かり。圖書編五十卷ゑ薩摩州云云先墓軍市米とあるも米ハ木の誤ゑて是も串木野なり。名義詳らかならず。和漢三才圖會ゑ薩摩國市來一里串木野とあり。郷村帳ゑ薩摩郡串木野郷あり。串木湊として舟の入る所あり猟船多し

○大平寺

隱德太平記七十四卷ゑ天正十五年五月四日関白船千代川ゑ著き大平寺を本陣と定賜ふ云云。同月七日龍伯秀吉公の御陣大平寺ゑ出仕せとあり。大平寺ハ薩摩郡千代水引郷ゑあり古寺とハ聞えゐ水といまゞ旧證を得ざ水ゑ暫く軍記説ゑ因て是を出せ。

○甑島郡

延喜式ゑ薩摩國甑嶋郡あり。和名抄ゑ薩摩國甑嶋古之木之万とあり。名義いまゞ考へ侘さて續紀三十卷ゑ神護景雲三年十一月庚寅天皇臨軒大隅薩摩隼人奏俗伎云云甑

島夷人麻比古外正六位上、同書三十五卷ヨ寶亀九年十一月壬子遣唐第四船來泊薩摩國甑島郡、其判官海上真人三狩等漂著耽羅島被嶋人略留、但録事韓國連源等陰謀解纜而去、率遣衆四十餘人而來、帰乙卯第二船到泊薩摩國出水郡、又第一船海中断舳艫各分、主神津守宿祢國麻呂等遣唐判官等五十六人乘其艫而著甑嶋郡、三代實録二十三卷ヨ貞観十五年五月太宰府言去三月十一日不知何許人船二艘載六十人漂著薩摩國甑島郡、言語難通、問答何用其首崖宗伝大陳潤等自書曰宗伝等渤海國人、彼國王差入大唐賀平徐州海路浪險漂盪至此國、司推驗事意不實、公驗所書年

紀亦復相違、疑是新羅人偽称渤海人、窃來辺境、欺領將二船向府之間一船得風飛帆逃遁云云、北條九代記ヨ正安三年十一月廿一日異国船若干著薩摩國甑嶋、大風吹賊船逐電、記吉續記ヨ正安三年十二月十日戌刻入道相国状到來、武家使者中詞相副之、異國襲來薩摩國子敷嶋兵船一艘著之、海上二百艘許見、自鎮西飛脚下向關東云云、藤原経長卿記ヨ正安三年十二月十日異国賊船來薩摩國子敷島者一艘、凡海上船可一百艘、海東諸國記ヨ藤原忠満丁亥年遣使來賀観音現像書称薩摩州古志岐島、代宜藤原忠満、かゞ見ヱ多り、郡の大様ハ和名抄九卷ヨ甑嶋郡管々甑島郷村帳ヨ甑

島郡上甑下甑和漢三才圖會ゑ薩摩國上甑下甑在竜島西其二島共長十三里許自下甑艮至水俣海上十八里とあり輿地図九州図等を按ずるゑ上甑中甑下甑とて三島相並へり中甑より東北かるを上甑といふ西南なるを下甑と云　郡より西上甑ゑ渡る所則ち京泊の船津なり九州図ゑ上甑より肥前国糸島ゑ四十八里下甑より宇治嶋ゑ四十七里かとあり宇治島ハ坊津より四十八里西方ゑある島なり

○管々郷

和名抄ゑ甑島郡管々とあり管々二字の内ゑ誤字あるべしされども考ふべきゐづきるけきを暫く指ておきぬ豊後人春樹云三國通覧琉球圖ゑ甑島南ゑ又甑と云べき物有て其中ゑづらと号する物あり管管の唱ハ誤ゑるや

○甑島郷

和名抄ゑ甑島郡甑島とあり甑ハ古志伎と訓べし九州軍記ゑ薩州甑島住人甑相馬丞云云三嶋の内何きを指せるゑや詳ならず志布志記ゑ或記曰永禄元年六月六日於西谷口甑三郎五郎武清相戰敵首肝付黨藥丸伊豆也とあるゑ

○石籬浦

續紀十九巻ゑ天平勝寶六年四月癸未太宰府言入唐第四舩判官正六位上布勢朝臣人主等来泊薩摩國石籬浦と有ゑ石籬ハ伊波加伎と訓しるゑ古歌ゑ砌垣沼又沼石垣さ

て此浦名しかは甑島の内かりと云證いかけれとも初は
引出名る史どもに見える遣唐使の船多く此甑島に漂着
せし趣かれも暫く此處に擧て後の考へをまつのみ。春樹
云三國通覽図中に山川湊より琉球に通ふ海路にて口島
中島等の西に四島あり其内に草かキ島あり此石籬をあ
やまれるかと
にや

○日置郡

延喜式に薩摩國日置郡あり。和名抄に薩摩國日置比於木
とあり。名義は日置部の居名りしに處名て負せしるか。日置部の
事は書紀又尾張風土記にも見え名り郡大抵は和名抄九巻に日置郡冨多納
薩合良吧上三郷あり郷村帳に日置郡吉利郷吉永永吉郷今田湯

之浦永吉かとあり。輿地圖に因て考ふるに東は鹿兒島南
は阿多西は海北薩摩に隣りて西南より東北に八里余東
南より西北に四里余あり。新撰姓氏録左京諸日置造出自高麗国人男馬王裔孫莢古君也
同右京諸蕃に日置造出自高麗国人伊利須使主也

○富多郷

和名抄に日置郡富多とあり。富多は等美太と訓べきか。此
郷今は詳ならず。えしに今と云字を書しがめるるとも
ある。此郡永吉郷に今田村あり

○納薩郷

和名抄に日置郡納薩とあり。いかゞ訓べきにや。兵部式に
薩摩國納津驛ありえし由ある處かとにはあらさるにや

ふかよく考ふへし

○合良郷

和名抄ニ日置郡合良ゼあり。合良ハいうゞ訓べきよゞ詳からす。大隅國ニ姶羅まい姶鵜ニ阿枚ともかきてアヒラと唱ふる所三處ニあり姶ハアフの音なるをアヒニ轉しあるそのなりさ形むこい形るも合ハ姶の畧字ニてアヒうるべきうさ形ごも今さる郷名も聞えさ形む定めかゝし又合ハカフの音なるをカハニ轉してカハうとも云へきうるふよく考ふへし

○伊作郡

延喜式ニ薩摩國伊作郡あり。和名抄九卷ニ薩摩國伊作、伊佐久とあり。名義いまゝ詳からす。今ハ伊佐と書てイさてと唱ふる形り

東鑑十五卷ニ伊佐三郎泉八郎云云。東鑑十八卷大隅国正八幡宮神領件ゝ恰作郷地頭肥後坊良西云云。同書廿五卷ニ建保七年伊佐三郎行政伊佐大進太郎。同書廿七卷ニ伊佐兵衛尉。同書廿二卷ニ伊佐四郎藏くと云ふもあり。春樹云今昔物ニ豊後講師ゝ海賊を謀て名のる時伊佐ハ道能観東國ニて度々の軍功をあらもしあるる云云とゝいへりしハ此伊作郡より出る人形るゝ

志布志記畧ニ天文八年六月十七日貴久攻市來城。同八月廿八日市來軍勢寄來テ伊作伊作軍勢百五十騎與是戦。同九月朔日市來落城。郡大様ハ和名抄九卷ニ伊作郡利納寛知集ニ伊佐郡云云五十二村。郷村帳ニ伊佐郡山崎郷。久留木、田田郷。黙陰、神子、鶴田大村郷。上手、下手、中津瀬、南方、中津川、小手村大口郷。原田、里、篠原、大田、市山、小川内、青木、抵村、渡邉、日丸、花北、古木原、淵邉、牛尾羽月郷。田代、宮人、下殿、大島、金波田、堂崎、田木川、若瀬、山野郷。山野、宮之城郷。黒木、藺牟田。ふとあり。輿地圖を按するニ伊作郡

東ハ大隅菱苅桑原二郡南ハ高城薩摩二郡西ハ高城出水二郡北ハ肥後國球摩郡ヨリ隣リて東西三四里或ハ五六里南北ハ十里余あり中ヨリ千代川あり。彦山僧立辨云伊作と云ハ別ち伊作と云ハ日置と阿多との間ヨリありて僅ヨリ一郷の地なれども後ヨリ阿多郡内ヨリ入りて郷となしたる物と聞ゆされも今伊佐郡と云ハ後ヨリ出水高城二郡内を割て置きたる物なるへしと云へかきいつよりもさる事なるべく思はれと作をサの假名ヨリも用ふへくかもそむくく伊作を伊佐と定めて引出たりなるかよくつむらふへし

○紫美神社

三代實録十二卷ヨリ貞観八年四月七日辛巳授薩摩國正六位上紫美神従五位下とあり。輿地圖ヨリ伊作郡紫尾あり。紫美ハ志毘と訓へし。地名より起ちる神名と聞えたり。此神事いまゝ考へず。立辨曰薩摩人の諷ヨリ七里ヒヒヤマとうたふ事ありシヒ山と云ハ長くついけるなるへしと云へりき

○利納郷

和名抄ヨリ伊作郡利納とあり。いつゝ訓へきやゝ心得かたし。納ハ綱誤字ヨリて等奈美とも訓へきか。島の綱の意なり是ハ郡の人上田百木考へなり。又春木の考ヨリ天正の比島津の家臣新納武藏守と云人あり今この利納も利ハ新字の誤ヨリて新納なるへきかと云ヨリきなかよく考へし

○入権現社 伊佐郡大口郷千出水村ヨリ西の村

南浦文集上卷ヨリ千出水入権現上梁文薩列牛山院千出水村素有一社名入権現相傳曩昔主於此村者勧請熊野大権

現以為一村守護神権現垂跡人居此地是故号入権現先是
文明十四年壬寅七月之晦所落成之社樓指則至于是歳庚
戌一百二十九年也雖経此月而無一修之者以故神廟舞殿
不蔽風日是可忍乎岩崎與右衛門尉秀之齊名猶存有欲修
之之風志擇閏二月廿二日良辰始運斧斤至於三月十一日
畢其功矣伏願上梁之後柱礎堅固不動不傾殿宇清虚無災
無難專祈今之主宰伊集院伴右衛門尉身宮康健武運亨通公
私安寧子孫昌盛次萬秀之身心堅固災障不侵壽命長延福
徳円満万民快樂五穀豊登國中無兵革之憂村裏避疾疫之害
とあり薩摩人云入権現は伊佐郡羽月郷千泉よりあり牛山院と
あるは伊集院かとの例つるかよく考へし立辨曰大口十八ヶ村の内なる牛糞院といふ山の名あり牛山院は牛糞の誤なり羽月なるさかへる所なれども羽月のうちなるはあら牛糞と云名を忌て後は大口と改めるる事物は見へしり

○阿多郡

風土記は薩摩國閑駝郡あり和名抄は薩摩國阿多とあり延喜式は見えざるは書えしらせる物なるへし和名抄は載せしを訓注をもるさ況名義は詳なら

ず神代紀下巻は天津彦火瓊々杵尊云云而天降於日向襲之高千穂峯矣既而皇孫遊行之状也者則自槵日二上天浮橋立於浮渚在平處立於浮渚在平處此云羽企磐梨陀此邏而陀陀志而薦宍之空國自頓丘覓國行去頓丘此云毗陀烏覓国此云賦磨儀行去此云騰原屋到於吾田長屋笠狭之碕矣其地有一人自号事勝國勝長狭皇孫問曰

國在耶以不對曰此爲有國請任意遊之故皇孫就留住時彼
國有長人名曰鹿葦津姫亦名神吾田津姫亦名木花之開耶姫皇孫問此長人
曰汝誰之女子耶對曰妾是天神娶大山祇神所生兒也皇孫
因而幸之即一夜而有娠皇孫未之信曰雖復天神何能一夜
之間令人有娠乎汝所懷者必非我子歟故鹿葦津姫忿恨乃
作無戸室入居其内而誓之曰妾所娠若非天孫之胤又當焦
滅如實天孫之胤火不能害即放火燒室始起烟末生出之兒
号火闌降命是隼人等始祖也火闌降此云褒能須素里次避熱而居生出之兒号
彦火々出見尊次生出之兒号火明命是尾張連等始祖也凡三子矣云
云一書曰云云到于吾田笠狹之御碕遂登長屋之竹島乃巡覽

其地者彼有人焉名曰事勝國勝長狹天孫因問之曰此誰國
歟對曰是長狹所住之國也然今乃奉上天孫矣天孫又問曰
其於秀起浪穂之上起八尋殿而手玉玲瓏織紝之女者是
誰之子女耶答曰大山祇神之女等大号磐長姫女号木花開
耶姫亦号豊吾田津姫云云皇孫因幸豊吾田津姫則一夜而
有身皇孫疑之云云遂生火酢芹命次生火折尊亦号彦火々
出見尊毋誓已驗方知實是皇孫之胤然豊吾田津姫恨皇孫
不與共言皇孫憂之乃乃歌之曰

憶企都茂幡陛尓幡誉戾耐毋伽祢耐擾茂阿黨播怒々
茂誉播都智耐理誉

書紀一書ニ兄火酢芹命得山幸利弟火折尊得海幸利云云
弟愁吟在海濱時遇塩筒老翁問曰何故愁若此乎火折尊對
曰云云老翁曰勿復憂吾將計之計曰海神所乗駿馬者八尋
鰐也是堅其鰭背而在橋之小戸吾當與彼者共策乃將火折
尊共往而見之云云ともあれど橋之小戸もこのあらわる
るへし今の日向国の内なりと云説いとも遠しあるよく
考へし神武天皇紀ニ云云長而娶日向國吾田邑吾平津媛爲
妃生手研耳命是等の趣ニ因て神代の古跡といふ日向
国の内ニあらずして今の大隅國囎唹郡ニ
り薩摩國阿多郡河邊郡ニて
ぐ思ふる山陵も又日向ニ
阿多御手養大闇降命六世孫薩摩若相樂後也又山城國神
別ニ阿多隼人富乃須佐利乃命之後也薩摩若相樂と云へ
ら民大和国宇智郡阿陀と云ふ有神武天皇紀ニ臣是苞苴
きと苞苴擎之子孫ニて別也
擎之子此則阿太養鷹部始祖也万葉集十一卷ニ阿太人乃

云云天武天皇紀ニ十一年七月壬辰朔甲午隼人多來貢方
物是日大隅隼人與阿多隼人相撲於朝廷大隅隼人勝之持
統天皇紀ニ朱鳥二年五月甲子朔乙酉隼人大隅阿多魁師
各領己衆互進誅爲辛未賞賜隼人大隅阿多魁師等三百三
十七人各々有差同天皇六年閏五月詔筑紫太宰府率河内
王等曰宜遣沙門於大隅與阿多可傳佛教此時事元亨釈書
隅國下ニ引出ふ也今ハ見ふる大
ニえらしつ照合てこるへし續後紀　卷ニ承和三年六月
山城国人右大衣阿多隼人逆足賜姓阿多忌寸古事記傳ニ
るどハ隼人国ニて上ニて皇朝ニ仕奉り東鑑七卷ニ文治
るが子孫の京畿ニ遣ニ住ふなり
三年九月廿二日所衆信房爲御使下向鎮西是天野藤内遠

景相共可追討貴海之旨依含嚴命也件島者古來無飛船帆之者而平家在世時薩摩國住人阿多平権守忠景依蒙勅勘逐電于彼島之間爲追討之遣筑後守家貞家貞粧軍船雖及數度終不凌風波空以令歸洛云云かとあり。さて郡大様は和名抄九卷ゑ阿多郡鷹屋田水葛例阿多已上四郷なり寛知集ゑ阿多郡云云二村郷村帳ゑ阿多郡阿多郷中津野花瀬村田河新山村瀬名宮崎招田渡重田布施郷大野高橋池伊作郷田尻小野中之里今田村湯之浦入来中原和田かとあり。輿地図ゑ因て考ふるゑ阿多郡東は鹿児島谿山二郡南は川邊郡西は海北は日置郡ゑ隣りて東西南北あり。強て考ふるゑ阿多の名義は敵の意ゑてもあらむか。熊襲隼人かどの皇朝ゑ敵なる奉り事古きえの是彼見えめさがども神代ゑ神阿多津媛ゑと云御名も聞りがなで神代よりの事ゑへるがで敵なふ意と見む事もいうべあらむ

○多夫施神社

三代實録二十三卷ゑ貞觀十五年四月五日授薩摩國正六位多夫施神従五位下とあり。多夫施は今の田布施郷ゑ。立辨云多夫施神は阿多郡田布施郷ゑ在て今田代都城の産土神とそと云里なゑ委く考ふへし

○祁前

文德實録五卷ゑ仁壽三年七月丙辰賜薩摩國孝女祁前福依賣爵三級終其身旌表門閭依賣天性至孝父年皆八十老

病著床無子唯有一女福依賣扶持左右業藥二十餘年傭力致養曉夕辛勤容顔焦瘦觀者憐之福依賣雖云野旅閑於禮儀恭敬父母有所諂稟之正色作声未嘗褻惰とあり。悒前ハ於保佐支と訓べし。和名抄ハ巻ハ備前國邑久郡邑久於保久ともあり見えたり名義ハ大なる出埼ゐと有て負せるへし。立辨ゥ言ハ薩摩國阿多郡大埼あり是古の悒前ゐらんと云ふき是説ハ因て先此郡内ハ挙て後考ハつまなんハ給黎郡知覽郷ハも大埼と云處ありといふ

○白羽火雷神社

三代實録四巻ハ貞観二年三月廿日庚午薩摩國従五位下白羽火雷神授従五位上とあり。白羽火雷ハ志羅波乃保伊加豆知と訓べし。白羽ハ地名ハよりて聞ゆ。さて或人の説ハ白羽火雷神社ハ阿多郡市來郷花園と云處ハ在て雷神社と云と云ふ。市來郷ハ輿地図ハ薩摩郡ハ入れ一説ハ此御神ハ高城郡千塹ハ白羽と云處有て彼處ハ祭れる神なり大明神と云。江川氏云白羽火雷神ハ薩摩郡平佐郷ハ祭て今ハ大明神社と云。りつ水も委しき證を得さ水ど定めかゝ水ど白羽と云處ハあり と云るゝくゐし く聞ゆ猶よく考へし

○小橋

日本書紀二巻ハ火闌降命即吾田君小橋等之本祖也。鈴屋翁云火照命ハ廣く隼人の祖と聞えたるを分て阿多の君の祖とし云るハ隼人の諸姓のうちハ殊ハあらハ水ゐる氏

よこそめ　古事記中巻神武天皇件に云云坐日向時娶阿多之小
けめ
椅君妹名阿比良比賣生子多藝志美々命次岐須美々命二
柱坐也とあり。小橋小椅ともよ乎波志と訓へし。名義ハ
橋ょ由有て負でいるへし。舊事紀景行天皇御子等を挙る中ょ襲小橋別命三田小橋別
の祖とあるを鈴屋翁の説ょ云云三字一本ょ皂とあれど
もいつれもあやまりょて吾田の小橋別なるへしと云ょ
しるり。古事記傳ょ小椅君ハ地名ょ因れる人の名ゐる。其地
をうしもける人ょて即阿多ハ大名ょて其中ょある小椅
名ょ負へるなるへし
と云地ゐるべし此地物ょ見えされともも必然るへし。今此
名の地ハ無きゆ云云とあり。郷村帳ょ阿多郡高橋村あり
し由ある處ょもめらさるょや。重て按するょ東鑑六巻
文治二年正月廿四日

日吉塔下彼岸衆訴訟事有其汰非二品一方御成敗之間
今日所被執申京都也日吉塔下彼岸衆申文一通謹以進上
之候為法性寺領小橋庄被押領三箇村候云云而重家自近
衛賜小橋庄預所職候畢仍衆徒可停止重家之結構之旨雖
觸遣候云彼云是共以庄領候依不能私成敗所々執申候也
任道理可被計仰下候歟頼朝恐々謹言正月廿四日進上郎
中納言殿とあり此小橋ハ阿多の小橋事ょハあらぬな
りょく考ふへし。春木云琉球人の三絃ょ合せて謡ふうい
ょ薩摩の事を作きるょ坊津の遣の事を多くいへりさて
其ういょ小橋と云事あり是阿多の小橋を云なるへしと
云へりき。常足按する筑前人るょ田植ういょ小橋節と云
えのをうふふ其ういょ小橋三千石駒が無うどやるるょ
いいいとふるり是も薩摩の小橋より出る歌ょもあ
らぬ。大橋といふハ豊前國仲津郡ょもあり。

○長屋

書紀二巻ょ火瓊々杵尊云云到於吾田長屋笠狭之碕矣其
地有一人自号事勝國勝長狭書紀一書ょ云云到於吾田長
田長屋笠狭之御碕時彼處有

一神云云とあり。長屋ハ那我也と訓べし。名義いまゝ詳らかす。長き屋なと造りし事なるか。又長狭といふ神の名の長也よしありけるきこゆ。さて神皇正統一卷ノ事勝國勝長狭と云神とある注ノ事見も伊弉諾尊の御子とあり。さて此地今ハ其趾さぶらかす古書ともの趣を考ふるノ長屋とある方ノ高屋といふ事なく高屋とある方ノ長屋と云事見えざれ同地ノてもあらむ。猶よく考ふべし。

○竹屋

神代紀一書ノ天國饒石彦火瓊々杵尊云云到于吾田笠狭之御碕遂登長屋之竹島乃巡覽其地者彼有人焉云云。書紀一書ノ初火燄明時生児火明命次火炎盛時生児火進命又曰火酢芹命次避火炎時生児火折彦火々出見尊。凡此三子火不能害及母亦無所少損時以竹刀截其児臍其所棄竹刀終成竹林故号其地曰竹屋時神吾田鹿葦津姫以卜定田号狭名田以其田稲釀天甜酒嘗之又用淳浪田稲為飯嘗之とあり。竹屋ハ多可也と訓べし。書紀かけり。又塵添壒嚢抄卷ノ風土記曰皇祖襃忍耆命日向国ノ云云是より薩摩國閑馳郡竹屋村ノ移ノ給して土人竹屋守女をめして其腹ノ二人の男子をようけ給しける時彼所の竹を刀ノ作ノて臍緒を切給ひ為り其竹ハ今もあり。と云ノ此跡を尋て今もかくそるノべともありざて古事記傳ノ薩摩國人云笠沙之御崎ノ三柱皇子御誕生の跡ありて三皇子を祭ノて竹屋大明神と云と云ノなるか次なる竹島のくゝりノもいへる考ふべし。又舊屋郷件ノも聊云へし。常足按ずるノ加世田郷今ハ川邊郡ノいれ水ノ故竹屋の地も今ハ川の郡の内ノいれ水ノとゝきこえ為ど和名抄作る比まで

正しく阿多郡の内なれども和名抄の方よりて阿多郡の内なるあがつ

○竹島

書紀一書に瓊々杵尊云々到于吾田笠狹之御碕遂登長屋之竹島とあり。竹島は多可志万と訓へし。さて是も竹屋と同處とは聞えねども書きさまの聊異なるに因て別件に出しつ。さていふ名形り。又孝德天皇紀に薩摩之曲竹島之門をさしていふ名形り。又孝德天皇紀に薩摩之曲竹島之門と云事も見えねども是はこゝの竹島の事にもあらず其事は聊河邊郡内にいへり。序に云孝德天皇紀に薩摩之曲竹島之門とある竹島はこゝとは別なり彼竹島は武備志に竹島は他計什麼に舊島ともある處にて書紀通證に竹島在薩摩之西別島也距薩州百里與硫黄島相去十八里とあり

○笠沙御前

古事記上卷瓊々杵尊天降件の詔云此地者向韓國真来通笠沙之御前而朝日之直刺國夕日之日照國也故此地甚吉地詔而於底津石根宮柱布斗斯理於高天原氷椽多迦斯理而坐也云云書紀に云云到於吾田長屋笠狹之碕矣又一書に到于吾田笠狹之御碕遂登長屋之竹島於是天津日高日子番迩々藝能命於笠沙御前遇麗美人爾問誰女白之大山津見神之女名神阿多都比賣亦名謂木花之佐久夜毘賣又問有汝之兄弟乎答白我姉石長比賣在也爾詔吾欲目合汝奈何答白僕不得白僕父大山津見神將白故乞遣其父大山津見神之時大歡喜而副其姉石長比賣令持百取机

代之物奉出故尓其姉因其醜見畏而返送唯留其弟木花之佐久夜毘賣以一宿爲婚尓大山津見神因返石長比賣大恥白送言我之女二並立奉由者使石長比賣者天神御子之命雖雪零風吹恒如石而常堅不動坐亦使木花之佐久夜毘賣者如木花之榮榮坐宇氣比豆貢進此命返石長比賣而獨留木花之佐久夜毘賣故神御子之御壽者木花之阿摩比能微坐故是以至于今天皇命等之御命不長也故後木花之佐久夜毘賣參出白妾妊身今臨産時是天神之御子私不可産故請爾詔佐久夜毘賣一宿妊哉是非我子必國神之子爾答曰吾妊之子若國神之子者産不幸若天神之御子者幸即即作無戸八尋殿入其殿内以土塗塞而方産時以火著其殿而産也故其火盛燒時所生之子名火照命此者隼人阿多君之祖次生子名火須勢理命須勢理三字以音次生子御名火遠理命亦名天津日高日子穗々手見命三柱云云とあり笠沙御前ハ加佐々能美佐支と訓へし名義いまゝ詳かならす古事記傳ニ薩摩國人云今本國の阿多郡ニ加世田之御前と云所あり是笠沙之御崎かり志布志記ニ日新入道加世田ノ城を攻と云事見えさり同書ニ十五代大守貴久公元亀二年六月廿三日於間世田逝去歳五十八諸家大概ニ間世田刑部左衛門と云者市来ニ居ゝるゝ其子孫川上左近將監ニつ記てゝブシニ移りゝとゝ云間世田七兵衛と云ハかの刑部左衛門ゝ子孫なるべきよしいへり其地ニ接きて宮崎と云所もあり京之原と云處もありさて其あかりニ

野間権現と云社あり木花開耶姫迩々藝尊彦火々出見尊
火明尊を祭云々とあり薩摩士江川氏云今加世田郷之内片浦小浦之邊是則上古所謂吾田長屋笠狭之埼也常足按するに加世田郷三村は今河邊郡に属て
阿多郡の内にはあらず然れも笠沙崎を始めて竹屋村と
も皆河邊郡の下に出すへき例なれとも風土記に閼駝郡
竹屋村和名抄に阿多郡隼屋ともあれも阿多郡の内に拳
つ阿多は古に此邊を廣くさして云名那れもなる河邊郡
につくべきことなりなるに似為れと河邊郡の方にも
旧證を得されはまづ此郡に付て引出る也

○高屋山上陵

書紀二卷に彦火々出見尊崩葬日向高屋山上陵とあり高
屋は多可也と訓へし初は拳なる高屋同處なれ又延喜諸陵式に日向
高屋山上陵彦火々出見尊在日向國無陵戸ともあり扨て
前皇廟陵記に薩摩國阿多郡大隅國肝属郡俱有隼屋郷高
與隼蓋二郷境相接恐此地之山又云今按古日向皆今大隅
薩摩日向是也帝都衛遷東去西海遠故於山城國葛野郡祭
之云云と伊利二郷境相接とあるはいうい那り両國隼
屋其間相去る事遠しされとも山陵はさいさの高屋なるへ
し日向とあるに泥むへからず日向は古へ三国に渡きる名なり又今本天
書に火々出見尊譲位於皇子之宮終崩日迎高弥之嶺宇奈
保之宮とあるは覚束なき書きさまなり譲位と云事その比なるきこと也

○鷹屋郷

和名抄に阿多郡鷹屋とあり。鷹屋は多加也と訓べし。竹屋高屋同處なり此郷地も今詳かなれ。えし川邉郡野間のあらりまて也有むと彼郡に宮村宮下神殿古殿かと云處もあり是彼火火出見命の旧居とも也すへきう阿多郡に宮崎といふところあり

○田水郷

和名抄に阿多郡田水とあり。いまゝ詳かなす。えし田川の誤なてもあらむ。阿多郷に田河あり又田伏の誤なてもあらむ。今阿多郡田布施郷あり

○葛例郷

和名抄に阿多郡葛例とあり。いまゝ詳かなす。強ていもゞ加礼伊と訓むと。大隅國囎唹郡葛例と云も有て今は嘉例河と云由なり。立辨云大隅薩摩の内に カレイと唱ふる處多しといへりき

○阿多郷

和名抄に阿多郡阿多郷あり。伯耆国日野郡阿太といふもあり古事記に神阿多都比賣。神武天皇紀に日向國吾田村吾平津媛。旧事紀今本に天日方奇方命亦名阿田都久志尼命かとあるも此郷内かとしつ。阿多と云事此あたりの大名とかきるも元と此郷名より起きりしかなむ。今も阿多郡阿多郷あり。志布志記天文四年件に島津相模守忠良入道日新者薩州田布施伊作阿多高橋之領主也とあり

○田後驛

延喜式ニ薩摩國田後駅あり。田後ハ多之利と訓へし。和名抄ニ上野国那波郡田後多之利とし有り　名義ハ川尻かと同意ニて海邊かとニ近き田を云なるへし。年田尻・三田・かと云地名國々ニあり　さて郷村帳ニ阿多郡伊作郷田尻あり此處かるへし。出水郡高城郡より田代の方ニ到る道筋ニ

○小松原

武備志ニ薩摩州小松原とあり。小松原ハ古末都婆良と訓へし。名義ハ小松の多く生ずる處ニて負せるなり。立辨云此小松原ハ阿多郡田布施郷吹上村内ニありと云ふき。

さて西遊記ニ薩州西南の吹上ハ其面限無き大洋ニて風荒けきハ白沙をうつ高く吹上けるハ是を吹散を故ニ其砂の高低定まらす殊ニ濱路長くして數十里の白沙ニ一点の塵しらく風景無雙の地なり。此吹上の蜑小女ともの讀る歌ニて彼處ニ語傳へつる

吹上の松ハ砂ニ埋れ枯て老木るかゝ乃小松原かな

三藐院殿防津へ左遷まし〳〵て暫くとゝまり給しとき此歌を聞て感せさせ給ひしとゝ。又自讀給へる歌ありと もいふとあり。近衛関白前久公故ありて天正三年九月薩摩國下向ありて同五年二月ニ帰洛あり後ニ龍山と申を其子関白信基公を三藐院殿と申せり西遊記の説多のへるニ似ゑり

○ノシロコ

西遊記ニ薩摩國鹿児島城より七里西方ノシロコと云處一郷皆高麗人なり大閤秀吉公朝鮮を征伐し給ふ時此國の先守彼處一郷先若男女悉く擒生と成して帰給ひ薩摩國にて一郷土地を賜ひ長く此處に住しめ給ふ今に至て衣服言語皆朝鮮風俗のまゝにて郷民繁茂し數百家ゝとなり初とりはかと成て来ること多りし時の十六氏ハいとゆる朴・李・林・鄭・車・美・崔・盧・沈・金・白・丁・何・朱・是ありさて今庄屋名を伸・仲・屯と云伸ハ元来の姓にもあらず日本に来ること多りて申をサルとよむ人のあるに依て人を加へゝる由なり其外金慶山白苓基なと云類なり又客屋の名を朴養眞と其子を朴養安と云妻を口レンと云さて此處にて高麗焼を造りしその陶場を見るに試にめさ岡しき事なり此村の人半ハ陶師なり朝鮮より傳来せる法にてやく故に白

焼ふとハいはこと云高麗渡りと云物の如くにてけいの物とハ見えぬさ水を上品の陶器ハ国守にめさるし物のゝ外にて賣買を禁しめらる是に依て多やをく得うゝ水も他國にてもいまゝ是を弄ふ人を見ぬその外ハ品にて質厚く烈火にかけても破るゝ事なし故に下品ハ土瓶なと多く造り出ス事なり薩隅日の三国ハ民間にも大ゝ此土瓶を用ふなり大坂迄にても取ぐを薩摩焼と称してつるなり薩摩にてハ是をノシロコヤキノチョカしいふなりさのゝさりにてチョカとハ土瓶の事なり是を土瓶といひてハ聞知る人なしさて此野代子の風俗と云ハ皆惣髪にて額の上に集めて結ひ為り京ゝさの女の擽にげかと云物の如し礼儀の時ハ頭にマンキンと云物をいゝく馬尾にて綱の如くに組て底かく耳の上に錫或真鍮にて木葉形の金物を左右につけ中ハ後の方にまハして當為る物るり高き中あり高きハ幔巾と云上官の人是を用ふ衣服ハ花色の絹にて袖廣く法衣の如くにして上裾にハ為り先裳を着て後に衣を着に其上に桃色の細く丸き帯を結ふ下着ハ日本風の服なり身もいとゝも廣し帯ハ前にて結ぶなり女の髪禮儀の時ハ三ツにわけて結ふなり常にハ擽巻の如くなり惣て薩摩ハ

異國の船の漂着する處ふれも諸國通詞職を置うるいと
朝鮮の通詞ハ必野代子の人これをつとむ。市来湊と伊
集院との間ハ高麗村として千餘軒の所ありて高麗やきを
作るとゝ云又今ハ髪ハそる事ふりとゝいふ今ハ伊集院の御
の内也

内閣文庫

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan